

利用者からみた東北「道の駅」の評価

○秋田大学¹⁾

フェロー会員 清水 浩志郎

国土交通省東北地方整備局²⁾

石塚 強一

1. はじめに

「道の駅」は、「休憩」、「情報発信」、「地域連携」の3機能のうち「休憩機能」の評価が高いことが様々なアンケート結果によってみることができる。また一方では「道の駅」の中にも利用者評価の高い駅、低い駅があることも筆者らの調査の中でわかっている。

本稿は、「道の駅」利用者に対して実施したアンケート調査結果より、「道の駅」に対する評価を、基本施設（駐車場、トイレ、情報施設）に対する仮想評価と立ち寄り率について検討を行った結果を報告するものである。

表-1 「道の駅」タイプの定義

タイプ	定義
休憩地型	幹線道路に面する
	隣接「道の駅」が25km以上
自然景観立地型	優れた自然の中に立地
地元交流型	役場から5km未満orJR駅に併設
テーマ型	明確なテーマのもとに整備
アミューズメント型	温泉等の娯楽施設、アウトドア施設を有する
物産特化型	特産に特徴が見られる

表-2 実地調査対象駅と回収数

駅名	駅タイプ	県名	路線名	回収数	
				平日	休日
石鳥谷	休憩地型	岩手県	国道4号	193	228
三本木		宮城県	国道4号	69	132
白樺の村やまがた		岩手県	国道281号	47	92
七ヶ宿	休憩地型	宮城県	国道113号	112	177
たじま		福島県	国道121号	178	182
はやちね	テーマ型	岩手県	紫波川井線	47	83
十三湖高原	自然景観立地型	青森県	国道339号	66	149
なんごう	アミューズメント型	青森県	名川階上線	84	132
いいで	特産特化型	山形県	国道113号	135	178
かみこあに	地元交流型	秋田県	国道285号	170	193
小計				1101	1546
総計				2647票	

2. 基本施設の金銭的評価

(1) 調査方法

調査方法は「道の駅」利用者に対して面接聞き取りによるアンケートを実施して、「支払い意志」と「支払い意志額」を把握した。支払いの対象は基本施設全体と、トイレ、道路情報、気象情報、地域情報に区分した把握を行った。アンケート調査対象「道の駅」は、多様なタイプの「道の駅」を抽出するため、平成11年度までに開設された68駅を6タイプに分類し、そのタイプを代表する10駅（表-2）を抽出した。

調査は平成12年11月の平日、休日の各1日に行った。

(2) 調査結果

支払い意志（図-1）

基本施設全体とトイレに対する賛成率は50%を超え、情報に対する賛成率は40%程度であり、中でも道路情報に対する賛成率は、気象・地域情報よりも若干高く、平日・休日別では、休日の賛成率が若干高い結果が得られた。

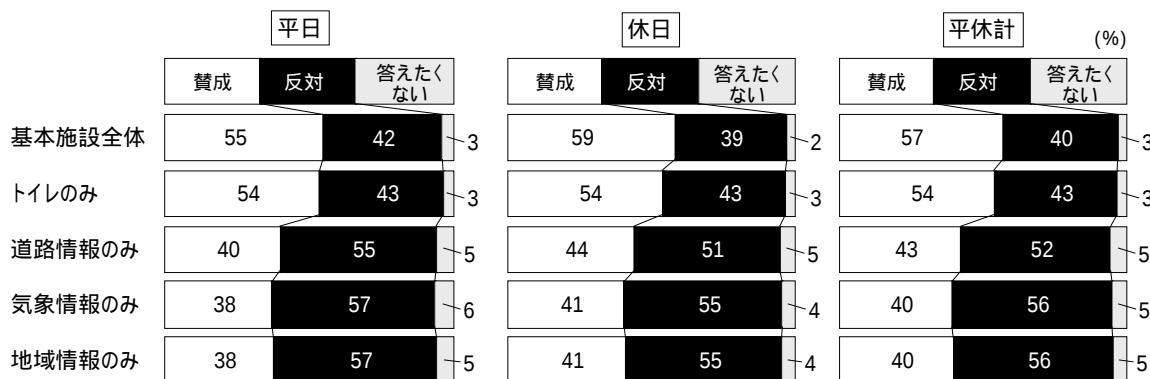


図-1 支払い意志（調査対象駅平均）

Key words ; 道の駅、評価、支払意志額、立ち寄り率

連絡先 ; 1) 秋田市手形学園町 1-1

TEL 018-889-2359

FAX 018-889-2975

2) 仙台市青葉区二日町 9-15

TEL 022-225-2171

FAX 022-222-7304

支払い意志額

基本施設全体に対する支払い意志額は10駅平均で平日147円、休日132円、平均138円が得られた。「道の駅」毎の額は平日117～190円、休日115～157円と、「道の駅」間に大きな差はない結果となった。

3. 評価と立寄り率

(1) スタンプラリーアンケート

東北管内の「道の駅」では毎年スタンプラリーが実施され、平成14年度は約5,700人の参加者があった。スタンプラリーでは参加者に対してアンケートを実施しており、平成14年度は次のアンケート内容で行い、対象104駅の評価が示されるようになっている。

表-3 スタンプラリーアンケート内容

県	NO	道の駅名	立ち寄った駅に○をつけてください。	立ち寄った駅ごと、項目ごとに、5段階評価の記号を記入してください。											
				5段階評価の記号（：大変良い　○：良い　—：よくもわるくもない　：あまり良くない　×：良くない）											
				トイレ	駐車場	無料休憩所	レストラン	地場特産品	地域振興施設	イベント	観光情報	道路情報	バリアフリー対応	接客	施設の24時間対応
青森県	1	じちのへ													
	2	はしがみ													
	3	・													
	4	・													

(2) 評価

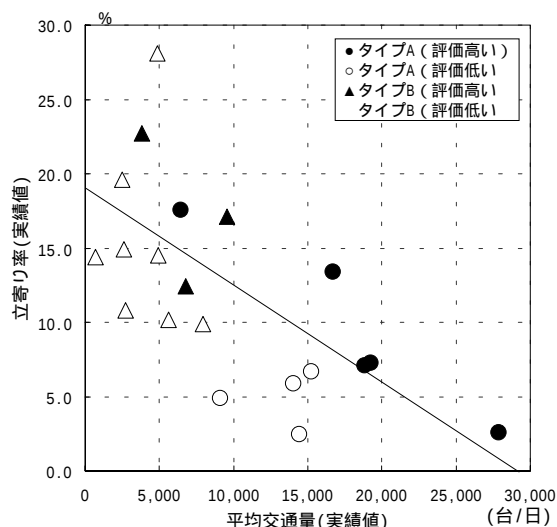
評価結果の特徴をまとめると次のとおりである。

- ・全ての「道の駅」では「大変良い」、「良い」という高い評価の割合が60%以上を占めたのは「トイレ」、「駐車場」、「地場特産品」であった。
- ・逆に低い評価となったのは「24時間対応」、「イベント」、「バリアフリー対応」であり「大変良い」、「良い」の割合は約30%以下であった。
- ・総合評価でランク付けしてみると、「イベント」、「24時間対応」、「バリアフリー対応」、「無料休憩所」の評価が高い「道の駅」が上位となる傾向がみられた。

(3) 評価と立寄り率

「道の駅」では平成9年と平成12年に立寄り率が合計20駅で把握されている。「道の駅」が設置されている道路の交通量との関係は、図-2に示すようである。これをコンビニエンスストアやガソリンスタンドが多く存在するか否かで区分して、更に上記のスタンプラリーアンケートの評価の高低で区分すると、次の傾向がみられた。

- ・コンビニ等が多い「道の駅」では、評価が低い駅は相対的に立寄り率が低い傾向にある。
- ・コンビニ等が少ない「道の駅」は、他の休憩箇所が少ないことから、評価が悪くても立寄り率は高くなっている。



*;タイプAとは、「20km圏内のコンビニが10件以上」、「ガソリンスタンド数が30件以上」、「隣接「道の駅」までの距離が10km以下」のいずれかが当てはまるもの、タイプBとはそれ以外のものとした。

図-2 「道の駅」の特徴分析

4. おわりに

今回の調査において、「道の駅」の基本施設に対する「支払い意志」が50%を超え、「支払い意志額」も把握することができ、これらを用いたB/C算出を行い投資に見合う評価がなされているとの結果を得ている。別論文「東北管内「道の駅」の費用便益分析」をご覧ください。

また、評価の高い「道の駅」は立寄り率が相対的に高くなる傾向がみられたことから、「道の駅」の有効活用を図るためには、各駅が利用者の評価を高める工夫を行っていく必要があると考える。